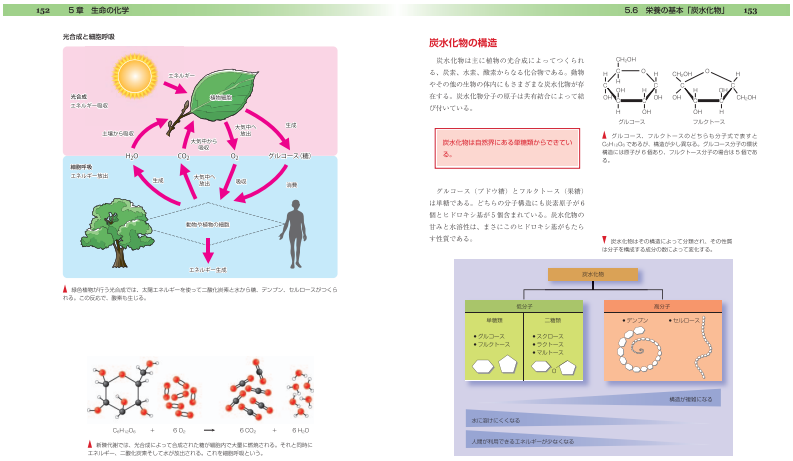
Color Gallery

ヘッドライン　　海外の科学教育

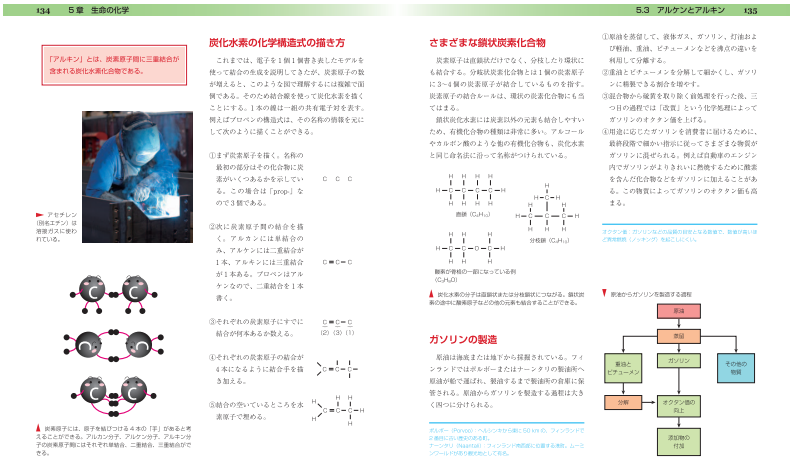
フィンランドのコンピテンス基盤型理科教育　　鈴木　　誠

フィンランドの教育は，求める能力や態度，スキルをあらかじめ明示したコンピテンス基盤型の教育である。問題解決能力を問う場面が多く，大学入学資格試験ではデータ処理や推論といった科学の探究の過程や実験計画能力を問う出題が多く見られる。それはどのような能力を育成すべきかという国家の明確な教育理念に基づく。P476–479



資料１　中学校「化学」から第５章「生命の化学」（栄養の基本：炭水化物）

左頁に光合成と呼吸の関係が記述され，光合成の化学反応式が登場する。右頁にはグルコース・フルクトースの構造が記述され，低分子高分子について簡単に触れている。（フィンランド理科教科書　化学編：化学同人より）



資料２　中学校「化学」から第５章「生命の化学」（アルケンとアルキン）

左頁に三重結合を含む炭化水素の化学構造式の書き方が，右頁に様々な鎖状炭素化合物が記述され，下に日常生活に必要なガソリンの製造について触れている。（フィンランド理科教科書　化学編：化学同人より）